

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック
京都御苑の魅力を発信

京都御苑



NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News



winter
冬
第136号
2017.12.1

京都御苑ニュース

CONTENTS

- ▶ 御大札に耀いた京都御所と御苑
- ▶ 赤や黄色の冬の彩り
- ▶ 時空を旅する
- ▶ 学生コラム —同志社女子大学—
- ▶ Information



雪の京都御苑、建礼門前大通り 写真：環境省

御大札に耀いた京都御所と御苑 —「儀典都市」としての京都—

所 功

平成三十年（二〇一八）は、明治改元から満五十年という節目の年に当たる。京都は幕末から維新への歴史的な転換点の舞台であった。明治天皇は京都から江戸へと居を移され、以後東京が都となった。宮廷政治文化史を専門に研究されている京都産業大学名誉教授である所功氏に、明治期以降における京都御所や京都御苑で織りなされた歴史を振り返っていただく。

京都産業大学に勤めて三十一年、その間によく訪れたのは、御所と御苑の辺りである。とりわけ五月の葵祭と十月の時代祭には、毎年行列の雑役（白丁）として奉仕する学生たちを応援するために出かけ、いろいろな人々と会うことができた。

明治の即位式と大嘗祭

この京都御所とその周辺は、ご承知のとおり長らく天皇をはじめ皇族や有力な公家たちの居所であった。それゆえ、百五十年前の慶応四年（明治元年（一八六八）八月、前年に践祚された若き天皇（数え十七歳）の即位式は、紫宸殿において行われ、英照皇太后（九条夙子）も大宮御所に居られたのである。

しかし、翌二年三月、天皇が東幸されて旧江戸城を皇居とされた。それに伴って、大嘗祭も初めて東京で営まれることになり、甲斐（山梨）が悠紀国、安房（千葉）が主基国と定められ、同四年（一八七二）十一月、皇居の吹上広芝に建てられた大

嘗宮で斎行されている。

その影響は極めて大きく、官庁も
商工業者などの多くも次々東京へ移
るにつれて、京都は急速に衰退し始
めた。それを挽回するために「京都
博覧会社」が創立され、同五年には
本願寺・建仁寺・知恩院を会場にし
て、翌六年には御所と仙洞御所で、
翌七年には大宮御所まで借用して
様々の博覧会が催されている。

大正と昭和の御大礼

しかし、寂れゆく流れは容易に止
まらない。その実情を京都へ行幸の
際ご覧になった天皇は、明治十一年
十月、京都御所の保存方法として、
ロシアで新都ペテルスブルグにいる

皇帝が、旧都モスクワのクレムリン
宮殿で戴冠式を行う例に倣い、将来
我が国の即位礼・大嘗祭（あわせて
大礼）を京都で行うようにとの叡慮
を示され、同十六年四月には、京都
を即位礼・大嘗祭の地と定め、宮内
省に京都御所保存を所管せしめる勅
を出しておられる。

そこで、それが同二十二年二月、
「皇室典範」に明文化され、同四十
二年二月、「登極令」に施行細則が
定められるに至った。そのおかげで、
大正天皇と昭和天皇の御大礼は、盛
大な即位礼が紫宸殿と南庭におい
て、また厳肅な大嘗祭が仙洞御所跡
において、さらに華麗な大饗が、大

正は二条城内、昭和
は御苑内に饗宴場を
設けて執り行われた
のである。

「儀典都市」京都の 存在意義

それによって、京
都が天皇のミヤ（皇
宮）があるコ（所）、
つまり本来のミヤコ
として甦った。だか
らこそ、京都御所は
今なお「京都皇宮」
と称され、「皇宮警
察本部京都護衛署」
も置かれている。

その上、この京都
は大正四年（一九一
五）と昭和三年（一
九二八）の御大礼前



「明治天皇御即位式図」紫宸殿上に御帳台、南庭に大地球儀・幣旗など
＜近代の御大礼と宮廷文化＞展覧会図録より



英照皇太后が幼少時ご覧になっていた黒木の梅（植継ぎ）

後に、御所も御苑も市街も著しく整
備された。そして一段と耀きを増し
た京都には、全国各地から大人も子
供もたくさん訪ねて来るようになり、
その名声が世界各国まで知れ渡るに
至ったのである。

それゆえ、京都は単なる観光都市
ではなく、平安以来の伝統を受け継
いで、近代にも大正・昭和の二度御
大礼の実施された「儀典都市」（梅
棹忠夫氏）として、御所と御苑の存
在意義を再認識し、さらに充実に
していく必要がある。

〈付記〉

平成二十九年十月二十一日から平
成三十年一月十四日まで明治神宮文
化館において、明治の即位式と大嘗
祭を中心にした特別展を開催してい
る。また平成三十年九月に京都市美
術館別館と細見美術館において、大
正と昭和の御大礼を中心にした特別
展の開催を予定している。

（京都産業大学名誉教授）

自然観察のすすめ

赤や黄色の冬の彩り

冬期の野鳥観察は地上に注目!!

西台律子



写真① ミヤマホオジロのオス

京都迎賓館には人の出入りが
増えてきました。それに呼応す
るかのように迎賓館周辺では色
さまざまな野鳥が出迎えてくれ
ます。

迎賓館周辺の林の草地ではミ
ヤマホオジロ（写真①）が群れ
ています。人や犬が近づくと樹
上に飛び上がります。草木の種
子やアブやガの幼虫などをつい
ばんでいます。

シベリア南東部や中国北部で
繁殖し、冬鳥として飛来してき
ます。ホオジロのように通年農
耕地や草原などで見かけるので
はなく、林や山地の開けた場所

で冬期のみ見られるので「みや
ま」とついたようです。春が
近づくと、「チイチュリチチチ
チーチュルル」などと早口で
さえずります。

オスの頭頂と顔、胸は黒く、
眉と喉が黄色いのでコントラス
トがはっきりしていてよく目立
ちます。メスは眉斑も喉も淡い
色です。ときどきカシラダカと
共に行動していることがあり、
どちらも「チッ」と鳴くので紛
らわしいことがあります。カシ
ラダカのオスの眉と喉が黄色く
ないことや腰が栗色なのが相違
点です。ミヤマホオジロの腰は

学生コラム

蛤御門を訪ねて

同志社女子大学日本語日本文学科4回生
吉海ゼミ・Kyoto Gyoen girls 坂井 茜

御苑の外郭を囲んでいる九つの門の中で、ひとつだけ奇妙な名前の門があるのをご存知でしょうか。それは「蛤御門」で、正式の名称は「新在家御門」というそうです。天明の大火の際、滅多に開くことのないこの門がその時の火で開いたということで、固く閉じている蛤が火にあぶられて開くことに喩えられ「蛤御門」と呼ばれました。その後、元治元年に勃発した「禁門の変」では、この門の周辺が会津藩と長州藩との激戦地となったことから「蛤御門の変」という俗称も生じています。大河ドラマ「八重の桜」で、西島秀俊演じる山本覚馬（新島八重の兄）が活躍したことが思い出されます。戦の折に門に命中した弾痕らしきものを、今でも確認することができます。ただし当時と場所が異なっています。明治になって行われた御苑整備事業の際、蛤御門は現在の位置まで西へ30メートルほど動かされ、建っている方向も、南向きから西向きに変わっているの、そのことも忘れてはなりません。



写真③ シロハラのおス



京都御苑から望む雪の大文字

台となった京都御所も、都草はご案内しております。
毎週日曜日の散策ツアーの中で感じますことは、京都にお住いの方でも、御所・御苑の変遷や来歴等を意外にご存知ないのでは？ということです。
例えば、現在の御所は桓武天皇建都の平安京内裏から約二キロメートル東に位置し、その築地塀の穴門に唯一「道喜門」と人名を冠する門があること、また十八世紀には、二百軒余りの宮家や公家、門跡寺院の里坊が公家町の景観を呈し、禁裏御所を取り巻くそれは最高の観光スポットであったことや、今もこの苑内に神社が三社存在していることなど、興味深い話は枚挙にいとまがありません。
お陰様でリピーターも増えて、メンバーもやり甲斐を感じながら勉強

■京都御苑歴史散策ツアー
都草理事長
(NPO法人京都観光文化を考える会)
毎週日曜日 午前10時出発
御苑内 閑院宮邸跡前集合
(予約不要／無料／雨天決行)



京都御苑での歴史散策ツアーガイド活動(中山邸跡前にて)

苑内利用者の声 時空を旅する

小松香織

灰色です。どちらも頭頂を立てています。

アカハラ(写真②)も、草地に降りて、昆虫の幼虫やミミズなどをついばんでいます。「キョッキョ」とか「ツリ」という声がしたら草地や樹上で見つけてください。アカハラは中部地方より北で繁殖し、冬期は暖地に移動してくる鳥です。

室町時代から、アカハラやシロハラのことを「しないどり」とよんでいました。脇腹の赤いアカハラは「あかはらじない」とよばれ、江戸時代から「あかはら」となりました。アカハラやシロハラ(写真③)、マミチャジナイはよく似ているので、まとめて「ちゃじない」といわれていたこともあります。

シロハラは、アカハラのように胸から脇まで橙褐色ではありません。アカハラは中央から下尾筒(尾の基部の下面)まで白いのですが、シロハラは名前のわりに褐色がかった白色です。



写真③ シロハラのおス



写真② アカハラのおス

地上を数歩歩いては立ち止まる場所はよく似ています。ツグミも含めて、とてもユーモラスなので時間も忘れて見とれてしまいます。

アカハラのおスの頭部はメスより暗い色で暗褐色です。オオアカハラが飛来したこともあり、アカハラが飛来したこともあり、くちばしも太くて長いのが特徴です。頭部も一層濃い色をしている傾向があります。アカハラのおメス(写真②)には淡い眉斑があり、喉が白い個体が多いようです。

昆虫だけではなく、柿やピラカンサ、ヘクソカズラなどの実もついでにみえます。春が近づくと、「キョロン、キョロン、チリリ」と独特のさえずりがキツタなどの上の方から聞こえてきます。とてもかわやかな気分になり、真似をしたくなります。

(京都自然観察学習会)

■イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

公開日：通年(事前申し込み不要)
ただし、下記は休みとなります。
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)
行事等実施のため支障のある日

公開時間：12月～2月/9:00～16:00(入場は15:20まで)

入場門：清所門

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

仙洞御所の参観拡充

事前申し込みに加えて当日受付も行われています。参観当日の11時頃から先着順に整理券が配布されます。(満員になり次第終了)

※本人確認ができる運転免許証等をお持ちください。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215



京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。



公開日：詳細は迎賓館のホームページでご確認ください。

参観料金：大人1,000～1,500円 中高生500～700円

お問合せ：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2302 (自動音声案内)

京都御苑冬の自然教室

苑内のいろいろな生きものを幅広く観察する初心者向けの自然観察会です。

日時：平成30年1月21日(日) 9:30～12:00

受付：9:00～9:20

集合：堺町御門(京都御苑南側、地下鉄丸太町徒歩10分)



講師：京都自然観察学習会の先生方

内容：冬の御苑の植物、キノコ、昆虫や野鳥の生態を観察します。

参加費：100円(保険代)

主催：環境省京都御苑管理事務所 (一財)国民公園協会京都御苑

その他：筆記用具、雨天時の準備、野外活動に適した服装でご参加ください。ルーペ、双眼鏡など観察用具があると便利です。

*当日7:00時点で気象庁が大雨、暴風警報を発令している場合や催行中でも天候急変等によりやむなく中止する場合があります。

■苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。収納展示室では京都御苑の歴史や自然が学べます。(無料)

開館時間：9:00～16:30 (入場は16:00まで)

休館日：月曜日(祝日は開館)、年末年始

アクセス：問ノ町口すぐ(御苑南西角 地下鉄丸太町 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家の遺構で江戸時代後期に建てられた九條家別邸。2017年より通年公開をスタート!

公開日：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 参観料 100円(高校生以上)

貸切利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます。利用料12,000円～

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのおみやげものを揃えてお待ちしております。

営業時間：9:00～16:30

中立売南休憩所(御苑西側中立売御門南すぐ) 軽食・喫茶、売店(京みやげ)

中立売南休憩所+PLUS

11月17日に中立売南休憩所に隣接して新規オープン! 食堂、売店(京みやげ)

—中立売地区再整備工事のお知らせ—

中立売北休憩所は10月23日を持ちまして建替え工事のため閉店いたしました。57年間のご愛顧誠にありがとうございました。なお、新休憩所の竣工は2018年12月頃の予定です。今後1年余りの間、御苑利用者の皆様方には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

富小路休憩所(御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接) 軽食・喫茶、菓子等の販売。

駐車場

料金：乗用車500円 バス1,300円(最初の3時間)

中立売御門西駐車場(乗用車、バス)
入場 7:40～19:30 出場 24時間

—中立売御門西駐車場出入口変更のお知らせ—

中立売地区再整備工事に伴い、駐車場出入口を中立売御門から蛤御門に変更いたします(2019年1月初旬頃までの予定)。蛤御門への進入は、烏丸通を南下して左折のみの進入となります。御苑利用者の皆様方には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

清和院御門東駐車場(乗用車専用)

入・出場 8:40～20:00(20:00以降閉鎖)

運動施設

富小路テニスコート(5面) 有料
富小路広場(6面)／**今出川広場**(3面) 有料
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。

申し込み：国民公園協会京都御苑



会員募集(2018年度)のお知らせ

2018年度(2018年1月～12月)の国民公園協会京都御苑会員を募集します。

■年会費

- 普通会員……………1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体)……………10,000円以上

■会員特典

- 1 京都御苑ニュースの送付
 - 2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
- 申し込み・お問合せ先
(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

2018年は明治維新から150年の節目の年。京都御所や御苑を含む京都はその主な歴史上の舞台となり、大きな変革を迎える。温故知新、今後1年御苑ニュースでも明治150年を振り返ってみたいと思う。(発行人 池田善一)

企画・発行／お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3
TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



本誌は全ページ再生紙を使用しています